

市のこんな人あんな人輝く人を紹介します

人物語り

ひとものがたり

日本に魅せられて



5000点のコレクション

春の訪れを感じる3月、城西国際大学の国際人文学部長として教壇に立つヘルベルト・プルチョウ宅を訪ねました。成東東中学校から海の方角へ少し走り、途中細道に入ってゆるいカーブを進むと、農家集落の中にお城のように大きな屋敷が建っています。石垣に囲まれた和風の家は、どんな人が住んでいるのだろうかと思わせます。庭には、手入れの行き届いた木々が植えられ、大きな庭石が置かれています。屋敷内は、旅館のように広く、玄関は格天井で、大黒柱と、天井から床に付くほど大きな掛け軸に、思わず言葉を失います。通された和室は、2間で18畳。裏千家春秋棚または御園棚立礼という腰掛てする茶道の道具が、美しく並べられていました。

妻のプルチョウ順子^{よしこ}さんは、現在、城西国際大学国際教育センター嘱託研究員をしながら、留学生や茶道部に茶道を教えています。自宅に外国からの先生や学生さんが来た際は、お手前の披露もするそうです。「市内は場所によっては不便さを感じます。でも、自然が残っていて昔から何も変わらないところがいい。そのまま残すことが大変で大切だと思いますよ」と話します。

プルチョウさんは、パリ大学でロシア語を習っていたころ、日本から来ていた学生と知り合い、パリの日本人学生寄宿舎薩摩館で日本人たちと3年間一緒に暮らししました。パリで日本文化や仏教の講演を聞き、それが日本文化に興味を持つきっかけとなりました。その後1964年、国費留学生として来日したプルチョウさんは、日本の民族、民間信仰、祭礼などに魅せられ、全国各地の郷土玩具や人形の収集に熱中し始めました。土や木、紙などでできた愛すべき郷土玩具や人形のコレクションは、今では約5000点にのぼります。カリフォルニア大学ロサンゼルス校で教鞭をとっていたころ、ハリリ・コレクションに出会ったことがきっかけで、関心は絵画に向かいました。また、茶の湯の稽古を始めてからは、茶道具もレパートリーの一つ。その他、狩野派、土佐派などによる歌仙絵や源氏絵など物語絵画、英一蝶、富岡鉄斎らの作品などコレクションは徐々に広がっています。「わたしは、将来、この家と今までに集めてきた美術品を山武市に役立ててほしいと思っています。また、妻と二人で収集した美術品を展示できたらと考えています」と流暢な日本語で話していました。



講師 Herbert Plutschow ヘルベルト・プルチョウ氏

▽PROFILE

1939年スイス生まれ／1962年 パリ大学東洋語学部ロシア語専攻卒業／1966年 早稲田大学大学院日本文学比較文学専攻修士課程修了／1968年 コロンビア大学日本研究部日本文学科博士課程修了、博士号取得(73年)／1984年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授／2004年 城西国際大学客員教授、比較文化研究所所長／2005年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校名誉教授、城西国際大学人文学部教授／2008年 城西国際大学国際人文学部学部長、現在に至る